摘出扁桃の細菌叢と咽頭塗沫培養の細菌叢について

順天堂大学耳鼻科 杉田麟也・市川銀一郎
岡部一男・河村正三

塗沫による咽頭培養と手術をした扁桃実質の細片を培養したものとの差について検討した．すなわち，1969年1月から1971年10月までの約3カ月間に，本院を訪れた扁桃疾患患者について咽頭培養し，さらに，このうち手術適応の場合には扁摘後，消毒したクーパー氏剪刀で扁桃上窩を含むように縦に半分に切り検査に供した．滅菌生食水で扁桃を十分洗い，次に細かく切つて乳鉢ですりつぶし，乳剤様にする．そしてこれを血液寒天培地，BTB培地，チョコレート寒天培地に塗沫，さらにパイクの増菌培地を使用し，溶連菌の検索を行ない，各培地に発育した菌の同定を型のごとく行なつた．以後この方法を扁桃細片培養と呼ぶ．その培養成績について述べると，20例同一人の咽頭培養と扁桃細片培養の細菌叢の差は著しくないが，扁桃細片培養では γ-Streptococcus と Haemophilus influenzae が多くなつており，β-Streptococcus はまつたく同じである． 157例の扁桃細片培養と98例の咽頭培養とを参考にみると，扁桃細片では Neisseria 92%，緑色連鎖球菌 86%，黄色ブドウ球菌 50%，Haemophilus influenzae 41%，溶連菌 24%，緑膿菌 6%，Candida 6%であるが，咽頭培養では Neisseria が100%にみられ，黄色ブドウ球菌21%，溶連菌 12%，Haemophilus influenzae 13%で，これを比較すると，Haemophilus influenzae で 30%，溶連菌で 12%，黄色ブ菌で 30% 扁桃細片培養の検出率が高くなつている．

以上の成績から，同一人の咽頭培養と扁桃細片培養を行なつたものが20例なので確かなことはまだ言えないが，Haemophilus influenzae に相違があるほかには大差は見られず，今後扁桃の表面塗沫だけで十分と思われたが，更に症例をふやして検討したい．

〔追加〕馬場駿吉（名市大）： 咽頭にも嫌気性菌ことに Veillonella, Peptostreptococcus, Peptococcus がかなり棲息しているとされているので，その方面の御検索をもされて，またその成績を御教示下さい．

〔質問〕高須照男（名市大）： 鼻腔の常在菌は季節的変動があるとされていますが，咽頭は如何．

〔応答〕杉田麟也（順大）： まだ季節的な差については検討していないので，今後症例をふやしてその面もみてゆきたい．

〔質問〕間宮 敦（名市大）：扁桃表面の処理は滅菌水で洗うだけで十分か．扁桃表面と扁桃組織内菌種の差があまり出なかつたのは，その辺の問題とも関連があると考えますので．

〔応答〕杉田麟也（順大）： 確固たる信念はまだないが，単に滅菌生食水で洗うことで表面の細菌は落とせると思う．岡部一男（順大）： 表面を電気焼灼する方法などもあり，滅菌水で洗う以外の方法とデーターに差が出るか，やはり検討してみなければならないと思つている．